

資 源 開 発 部 門

教 授 谿 忠 人 (薬学博士)

助 手 山 路 誠 一 (博士(薬学))

◇研究目的

資源開発部門は、天然薬物研究の基礎となる研究領域（来歴や用法を考証して基原を確定し、品質規格を設定する研究）を担っている。天然薬物の中で、とくに漢方医薬に関する経験知を、現代医療に応用する視点から継承・検証し評価する部門である。漢方医薬の品質評価法を開発し、加工調製（修治）や煎剤の薬剤学的意義を解明し、複合薬剤としての特徴を解析する。

（98年3月に谿が着任し、研究課題を漢方薬学領域に特化しつつある）。

◇研究概要

1. 漢方薬の学：漢方用薬の医薬史的・生薬学的研究

歴代の医方書（処方集）で用いられている漢方用薬のデータベースを構築し、使用頻度から用薬法や薬能を検証し、科学研究や臨床応用の指針を探る研究に着手した。

【学会発表：5，4年生卒業論文課題】

2. 漢方方剤の薬学：漢方方剤や生薬製剤の薬剤薬理学的研究

(1) 漢方方剤の薬理作用や生薬の配合意義を検証する研究に着手した。

【学会発表：3～4】

(2) 和漢薬研究所統一テーマ「アトピー性皮膚炎」に参画し、研究に着手した。

(3) 瘀血を解析する研究に着手した（漢方診断学部門，恒常性機能解析部門との共同研究）。

【4年生卒業論文課題】

3. 医療漢方薬学：漢方医薬や漢方方剤の医療情報研究

漢方用薬や漢方方剤の経験知と客観知を対比してまとめ、漢方薬学の卒前教育と、医療担当者への卒業後生涯教育，および一般人への教育啓蒙活動を行った。

【著書：1；総説：1；学会発表：1，7；その他：1～12】

4. その他の研究

(1) 今までの継続課題として民族薬物の生薬学的研究を行った。

【原著：1】

(2) 植物の断片から基原を解明する生薬学的研究の手法を、食物中毒の予防や原因植物の鑑定に活用することを試みた。

【学会発表：2】

(3) 薬用食物の作用に関する基礎研究に参画した。

【原著：4，学会発表：6】

(4) 谿の前職における研究を論文にまとめた。

【原著：2～3】

◇著 書

- 1) 谿 忠人：方剤と配剤生薬の薬理. 長谷川弥人, 大塚恭男, 丁 宗鉄 (編集)『改訂版 臨床医の漢方治療指針』メジカルビュー社, 東京, 636-647, 1999年 (分担執筆)

◇原 著

- 1) 山路誠一, 小松かつ子, 谿 忠人, 難波恒雄：チベット薬物の生薬学的研究 (13報). *Nardostachys* 属植物に由来する「sPang-spos (パンポェ)」, 漢薬「甘松香」, およびアールヴェーダ薬物「Jatamansi」について. *生薬*, 53 (2) : 61-71, 1999.
- 2) Ishikawa Y., Takeno H., Watanabe K. and Tani T.: Lipogenic action of the novel oral antidiabetic agent HQL-975 in genetically obese diabetic KK-Ay mice. *Biol. Pharm. Bull.*, 22 (6) : 572-576, 1999.
- 3) Moriya H., Takagi Y., Nakanishi T., Hayashi M., Tani T. and Hirotsu I.: Affinity profiles of various muscarinic antagonists for cloned human muscarinic acetylcholine receptor (mAChR) subtypes and mAChR in rat heart and submandibular gland. *Life Sciences*, 64 (25) : 2351-2358, 1999.
- 4) Itoh M., Masuike Y., Namba K., Nakata K., Tani T. and Kubo M. : Anti-tumor activity of hot-water extract of *Hericium ernaceum* (Bull. Fr.) Pers. (Yamabushi-take). *Natural Medicines*, 53 (5) : 263-265, 1999.

◇総 説

- 1) 谿 忠人：漢方製剤療法を日本漢方と中医学と対比して考える. *漢方の臨床*, 46 : 93-101, 1999

◇学会報告

- 1) 谿 忠人：漢方薬学の卒前教育の実際. 平成10年度日本東洋医学会関西支部・教育講習会. 1999.2, 大阪.
- 2) 山路誠一, 谿 忠人, 広瀬保夫, 野崎兼吉：有毒植物中毒の原因種の鑑定研究—チョウセンアサガオ属種子の同定と鑑別—：日本薬学会第119年会, 1999.3, 徳島.
- 3) Tang, F., Nakanishi, Y., Abe, H., and Tani, T.: The effect of Liu Jun Zi Tang (六君子湯), Ren Shen Yang Rong Tang (人參養榮湯) and Xiao Gan Tang (消痞湯) on brush border of intestinal epithelial cells in aged mouse. The 10 th International Congress of Oriental Medicine. 1999.5, Tokyo.
- 4) Nakanishi, Y., Tang, F., Kanai, S., Abe, H., and Tani, T.: The effect of Shu Ling Huo xie Tang (疎経活血湯) on expression of ICAM-1 and Infiltration of T-cells in synovium of adjuvant-induced arthritis in rats. The 10 th International Congress of Oriental Medicine. 1999.5, Tokyo.
- 5) 赤丸敏行, 谿 忠人：漢方用薬と中薬の薬能を探る (3) 医療用漢方製剤を構成する生薬の使用頻度. 第16回和漢医薬学会大会, 1999.8, 千葉.
- 6) Basnet, P., Tani, T., and Komatsu, K.: Propolis prevents diabetes and increases life span in NOD mice and inhibits the STZ-toxicity in rats. The 16 th general meeting of

Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU, 1999.8, Chiba.

- 7) 谿 忠人：黄芩と黄連の薬能と薬理. 平成11年度日本東洋医学会関西支部・教育講習会 1999.11, 和歌山

◇その他 (漢方医薬の Health and Medical Information 活動) :

- 1) 谿 忠人：漢方薬の素朴な疑問に答えます (2) 証は今でも必要ですか?. 調剤と情報, 5:202-209, 1999.
- 2) 谿 忠人：漢方薬の素朴な疑問に答えます (3) 煎じ薬とエキス製剤の違いは?. 調剤と情報, 5:680-687, 1999.
- 3) 谿 忠人：漢方薬の素朴な疑問に答えます (4) 虚実診断は今でも必要ですか?. 調剤と情報, 5:1122-1130, 1999.
- 4) 谿 忠人：漢方薬の素朴な疑問に答えます (5) 虚実をもう一度確認させてください. 調剤と情報, 5:1652-1658, 1999.
- 5) 谿 忠人：和漢の窓から. 讀賣新聞 (富山・石川版) 1999.6~11. (14回連載)
- 6) 谿 忠人：漢方の薬箱. 南日本新聞 (鹿児島). 1999.7~12. (4回連載)
- 7) 谿 忠人：和漢薬とのつき合い方. 平成10年度市民公開講座 (主催：和漢薬研究所). 1999.3. 富山.
- 8) 谿 忠人：漢方薬の薬能と薬理 (何故, 漢方術語が必要ですか?). 第21回医学生・研修医のための東洋医学セミナー (主催：北里研究所東洋医学総合研究所) 特別講演. 1999.7, 東京.
- 9) 谿 忠人：和漢薬とのつき合い方 (ファストフード店と寿司屋を例にして). 市民公開講座 (主催：第16回和漢医薬学会). 1999.8. 千葉.
- 10) 谿 忠人：健康増進と治療と和漢薬. 市民公開講座：21世紀の健康を伝統医薬から考える (主催：国際伝統医薬フォーラム). 1999.10, 富山.
- 11) 谿 忠人：美しく健やかに歳を重ねるために ~漢方薬とのつき合い方~. ふくい健康セミナー (主催：福井県医師会, 福井新聞社) 1999.10, 福井.
- 12) 谿 忠人：美しく健やかに歳を重ねるために ~「くすり」と「たべもの」を活用する~. '99健康セミナー (主催：富山県医師会, 北日本新聞社) 1999.10, 富山.

◇共同研究

- 1) 西野隆雄：大阪薬科大学・第1薬剤学教室
「漢方方剤や生薬製剤の生物薬剤学的研究」1998.3~
- 2) 赤丸敏行：(財団法人)大阪漢方医学振興財団
「漢方用薬の医薬史学的研究」1998.3~
- 3) 中西有香, 唐 方：近畿大学東洋医学研究所・第I研究部門
「漢方方剤の薬理学的研究」1998.4~1999.9
- 4) 広瀬保夫：新潟市民病院・救命救急センター
「食物中毒の原因植物の鑑定」1998.8~1999.12
- 5) 王 崢濤：中国薬科大学
「中薬蛇牀子の活性成分と品質評価」1998.12~

- 6) 蔡少青, 王 璇: 北京医科大学
「栽培黄芩と野生黄芩の判別と品質」1999.6～

◇非常勤講師等

- 1) 谿 忠人: 近畿大学東洋医学研究所・非常勤講師 (1998.4～1999.3)
2) 谿 忠人: (財団法人) 大阪漢方医学振興財団 (理事) (1998.3～)

◇研究費取得状況

- 1) 平成11年度文部省科学研究費補助金, 奨励研究 (A) (代表: 山路誠一)「画像解析装置による葉類生薬鑑別法の開発に関する研究」
2) 平成11年度富山県受託研究「和漢薬・バイオテクノロジー研究」(代表: 谿 忠人)「和漢薬の医療情報研究」
3) 平成11年度教育研究学内特別経費 (分担: 谿 忠人)「アトピー性皮膚炎モデルの開発と漢方方剤の作用評価および活性成分の構造研究」

◇研究室在籍者

大学院薬学研究科前期1年: 何 菊秀

薬学部4年生: 片貝真寿美 卒業論文: 『傷寒論』の処方構成と用薬規範を探る
能勢 勝哉 卒業論文: 瘀血病態の platelet microparticle

研究機関研究員: 金 東郁 (1999.4～)

受託研究員: 馬場達也 (大幸薬品) (1999.4～)

研究生 (国費外国人留学生): 何 菊秀 (中国薬科大学) (1998.10～1999.3)

外国人客員研究員: 蔡 金娜 (中国薬科大学) (1998.12～1999.6)

: 王 璇 (北京医科大学) (1999.6～1999.8)

: 鄭 和珍 (韓国) (1999.10～)

: 謝 麗華 (北京医科大学) (1999.11～)

研究生: 府和隆子 (1999.4～), 勝田知子 (1999.4～)

◇研究室来訪者

- 1) (1999.10) 香港漢方製剤訪日ミッション (団長: 劉栄基, 香港中華製薬総商会・副理事長)
受け入れ 講演: 日本の医療用漢方製剤の現況と再評価問題
2) (1999.11) 社団法人・近畿化学協会 第21期研修塾 (塾頭: 中島路可博士) 受け入れ
特別講義: 漢方医薬の学 (客観知) と術 (経験知).